

ともちちゃんち

作／おおや かつぎ

原作／たなか とも

「66歳ちりつもばあちゃんの幸せになるふりかけ」
「66歳ちりつもばあちゃんの幸せの道しるべ」

登場人物

昌

とも子 (小学生)

とも子

哲

英二

綾

優衣

ネコのタマ

ネコのゴロ

珠恵

介護士

七場まではできるだけ簡素で簡略な舞台

音楽 ライトカーテン

春

とも子が懸命に掃除をしている
ネコのタマとゴロがジャレ寄ってくる

とも子 ……あーん、もうタマは！ トモはお掃除中。あー、もう分かったから、ジャレんといてよ。

ふて腐れるタマ。とも子の行く手にどつかと寝転ぶゴロ

ゴロ
とも子

ゴロゴロ ゴロゴロ。
もう！ 今度はゴロゴロのゴロかいな。どいてどいて、トモは忙しいんやから。ほら。そんなゴロゴロ言うてもアカンよ。あっち行って！

ゴロ

とも子

タマ

ゴロ

タマ

ゴロ

とも子

タマ

ゴロ

とも子

ゴロ

タマ

ゴロ

タマ

トモちゃん、遊んでくれへん。つまらんなあ。もつと遊んで欲しいなあ。僕、トモちゃん大好き！ゴロゴロ（トモの前に寝転ぶ）なあ、遊んで遊んで！

ゴロのあほ！邪魔せんといて、トモは今忙しいの。（首根っこをヒョイと摘んで）お前はそこで大人しいにしときなさい！

あーあ、怒られた。

おーこられた怒られた、トモちゃんに怒られた！あー、つまらん。（拗ねる）しやーないやん。トモちゃんはお家のお手伝いで忙しいんやから。

そんなん、家のことはおばあちゃんがしたらええねん。トモちゃんは手伝わんでもええから、僕の相手してほしいにやーん。

やめて！

ゴロちゃん、甘えすぎ！

甘えるんは僕ちゃんのお仕事ニヤニヨでーす。

キライ！

シュン！

あのね、おばあちゃんも忙しいの。そやから、トモちゃんも弟の哲ちゃんも毎日、掃除したり洗濯物たたんだり、買い物について行ったり、二人ともお家のこと手伝つてるでしよ。

そういうたら、おばあちゃんも僕らの相手してくれへんねえ。

何言うてんの。お腹空いたお腹空いたく言うてピーピー鳴いてたゴロちゃんを拾ってくれたんはおばあちゃんやないの。

ゴロ

あ、そうでした。おばあちゃんは僕の命の恩人や。けど、もうちよつと相手してくれてもええやん？

タマ

おばあちゃんは忙しいんよ。

ゴロ

ネコの手くらい貸したんに。

タマ

ネコの手は、なんぼ借りても役にたたへんの。かえっておばあちゃんに迷惑かけるだけ。けど、昔はよう遊んでくれたんよ！

ゴロ

へー。

タマ

ゴロちゃんは知らんやろけど、ずーと前、神戸で大きな地震があつたんよ。

ゴロ

地震？

タマ

そう、大きい大きい地震。突然ドーンときて、地の底からゴーいう音がしたと思たら、今度は右へ左へとすごい揺れよ。

ゴロ

ウツソー。

タマ

嘘や無いわ。寒い寒い雪のちらつく朝やったわ。おばあちゃんの枕元ですやすや寝てたんやけど、急にドツカーンときてビックリして慌てて逃げたんよ。もう何が何やら分からん位逃げたみたい。それで気が付いたら辺りは火の海。こおーて

ゴロ

こわーて、そこからまた訳分からんぐらい逃げて、結局おばあちゃんとは別れ別れ……。

タマ

えー。

ゴロ

それからどうしたん。

タマ

それから、そっからが大変やつてんから。寒いわ、食べるモンはないわ、帰る家はないわ、おばあちゃんはおらへんわ、地面は揺れるわ、もう心細うて心細う

て……。

えー、まだ地面揺れるの？

そう、揺れるんよ。地面が動くんよ。余震いうて、そーら、揺れる揺れる。

ふーん、地面が動くねえ。そら怖いわ。それに帰る家もないんか。

そうなんよ。ついさっきまではおばあちゃんのお家で何の心配もなく、ぬくぬくと暮らしてたんやから……。クツスン！ タマちゃんの聞くも涙語るも涙の震災

物語！

なんやそれ？ 嬉しそうやん。

こういう辛い話は明るうに話さんと。「明るい話は深く、重い話は軽く明るく」つ

て、どっかの偉い先生が言うてたし。

なんのこっちゃ。

逃げに逃げて、ようやくと地震の被害の少なかった神社にたどり着いて、それか

らは飢えと寒さを凌ぐ辛い辛い日々よ。

ふーん。ほんで？

ほんで、地震から大分経ったある日、境内に「タマー、タマー、タマちゃん」

て呼ぶ声が聞こえたんよ。

えー！

優しい優しいおばあちゃんの声。嬉しかった。やっと、待ちに待ったおばあち

やんが探しにきてくれたんよ。

あー、クツスン！ 聞くも涙、語るも涙。タマちゃんとおばあちゃんの奇跡の再

ゴロ
タマ
ゴロ
タマ
ゴロ
タマ
ゴロ
タマ
ゴロ
タマ
ゴロ
タマ
ゴロ
タマ
ゴロ
タマ

会！ ラーブ イザ メニー スプレnderシング。

何、歌うてるの？

この際、もつとドラマを盛り上げよう思て。

タマ
ゴロ

ドラマやないの、ほんとにあったこと。そろもう、嬉しかったよ。おばあちゃん曰く、私は犬のジョンの生まれ変わりやねんで。ワン！

タマ
ゴロ

えー、タマ姉ちゃん、前世は犬やったん。

タマ
ゴロ

ワンワン！

タマ
ゴロ

嘘みたいな話でしょ。けど、おばあちゃんはそう信じてるみたい。おばあちゃん

が小さい頃に可愛がってた犬のジョンは、空襲でおばあちゃんの身代わりになっ

タマ
ゴロ

て亡くなってる。

タマ
ゴロ

ふーん。

おばあちゃんはそれからずーととジョンに会いたいなあ思てたらしいの。ほ

んで、私と出会った瞬間にビビッときたんやて。ジョンがまた会いに来てくれた

あつて。この子、ネコやけど、ジョンに間違いないって。そやからおばあちゃん、

タマ
ゴロ

私のこと、よー可愛がってくれたワン。

タマ
ゴロ

へーえ。そういうことあるんかなあ。

あるんよ。おばあちゃん、よう言うやん。なんでもグルグルまわってる。ものも、

タマ
ゴロ

ふーん。そしたら僕は？ 前世は何やったんやろ？

タマ

さあ。ひよつとしたらネズミやったかもね。チュー！

ゴロ

えー、ネズミ！

タマ

うん、橋の下かそこいらの、どぶネズミ！

ゴロ

えー、橋の下のどぶネズミ！？ そおれはないわ。

タマ

分からはんよー。

ゴロ

もう！！

タマ

けど、あの時、神社で再会できた時、おばあちゃん「タマよ、タマよ」ってボロ

ゴロ

ボロ泣いてくれた。私も嬉しいで嬉しいでたまらんかったわ。

タマ

ふーん。それやったら、もつと早う迎えにきてくれたらよかったのにねえ。

ゴロ

あのねえ、おばあちゃんはネコどころやない、めっちゃ大変やったのよ。地震で

タマ

家が潰れてしまっし、何とか無事助かったおじいちゃんも地震のショックであれ

ゴロ

よあれよという間に体調を崩して亡くなってしまっし、そーらえらいことやっ

タマ

んから。

ゴロ

ふーん、そうやったんや。

タマ

それに亡くなったんはおじいちゃんだけやなかったんよ。

ゴロ

えー？

タマ

トモちゃんたちのお父さんとお母さん。トモちゃんらはそれまで家族4人で暮ら

ゴロ

してたんやけど、結局、崩れた家の瓦礫の下から助かったんはトモちゃんと哲

ゴロ

ちゃんだけやったの。
お父さんとお母さんは？

タマ　うーん。子供ら二人を庇って瓦礫の下で折り重なるように亡くなってたらしい。
ゴロ　ふーん、そうやったんや。それで、トモちゃんと哲ちゃんはおばあちゃんと一緒に暮らすようになったんか。

タマ　そう、トモちゃんたちのお父さんのお母さん、つまりおばあちゃんね。そやから、おばあちゃんは私らネコどころやなかったの。

ゴロ　そういう訳やったんか。おばあちゃんもトモちゃんも哲ちゃんも大変やったんやね。

タマ　そうよー。それでもタマのこと忘れんと、おばあちゃんはずーと探してくれてたんよ。クツスン。

ゴロ　再会できてよかったにやん。
タマ　うん、よかったにやん。

二匹　（二匹、抱き合い）よかったよかったよかったにやーん！！
とも子　（拭き掃除）あんたらはええなー。そうやってにやんにやん言うてたら、美味しいモンももらえるんやから。あー、しんど。ちよと休憩。

二匹　うん、ちよと休憩。
ゴロ　ゴロにやーん。美味しいモン、おくれにやん！

タマ　ニヤーオー、美味しいモン、頂ー戴にやん！

とも子　あきません。美味しいモンは晩ご飯までお預け！（拭き掃除を続ける）
二匹　にやんにえん（残念）！

とも子　（拭き掃除をしながら）「食う寝る出す干す」は基本中の基本、生きていく基本！

二匹 哲
二匹 とも子
哲
とも子
ゴロ
タマ
ゴロ
二匹
とも子
昌
とも子
昌
とも子
昌

コレはおばあちゃんの口癖や。この基本ができてたら、心が喜んで、それで身体も喜んでくれるんやて。けど、食べるのと寝るのはよう分かるけど、出すって何や?…ああ、きつとあれや。ウンチや。おばあちゃん、毎朝ご飯前に、「出すもんはちやつちやと出しなさい。」て言うもんね。けど、干すって何やろ? 何を干すんやろ? お布団?……。あー、やつぱりしんどい。ちよつとまた、休憩。ちよつとまた、休憩。

お姉ちゃん、休憩が多いなあ。サボったらあかんでえ。

あ、哲ちゃんや。ニャーオー(哲にジャレつく)。

ちよつと休憩しただけやないの。哲ちゃんも手伝うてよ。

残念でした。僕は今から風呂掃除や。じゃあねえー。

風呂掃除やて。

行こ行こ。

うん、行こ行こ。

(とも子に)ニャアニエー。

哲のケチ! 何がニャアニエーよ。あー、しんど。(拭き掃除を続ける)

(買い物袋を手に)ただいま。

あつ、おばあちゃん、お帰りー。

帰ってきたよー。哲ちゃんは?

今、お風呂洗ろてる。

そうかあ。一人ともご苦労さんやねえ。おばあちゃんもこれから晩ご飯つくるん、

とも子
昌
とも子

頑張るわ。タマー、ゴロちゃん、あんたにも美味しいモンあるよ。あれ、ネコたちは？
哲ちゃんと一緒に風呂場。
ふーん。(風呂場の方を気にする)トモチちゃん、晩ご飯作るの手伝ってくれる？
はい。

胡麻をする準備をしている祖母ととも子

とも子
昌
とも子
昌
とも子
昌
とも子
昌
とも子

胡麻？ 何作るの？
うん？ ほうれん草の白あえ。すりこ木、すりこ木。
白あえかあ。ほうれん草あんまり好きやないけど、おばあちゃんの作るほうれん草の白和えはイケンねん。
さあ、ゴリゴリゴリゴリ胡麻すりや。(手にはシャモジ)
おばあちゃん、それシャモジでしょう。
あれ？
すりこ木はこっちゃん。
ええ？ ああ、ほんまや。
ああ、ビックリしたあ。
おばあちゃんもビックリしたわ。何をするやら。すっかりすっかり間違えちやつて。

とも子
二人

(真似て) すっかりしつかり間違えちゃって。
やーねえ。(笑)

二人、一緒にすり鉢で胡麻をする

昌

雑巾がけ、えらかったか？

とも子

うん、しんどかった。けど、ちよつとええ気分になれてん。

昌

ええ気分？

とも子

うん、一人で雑巾がけていたら、ちよつとシンデレラの気分になれるねん。

昌

へー、ともちゃんのシンデレラか。そうかあ。ほれ、胡麻のええ香りしてきたで。

とも子

ほんまや。なあ、なあ、私にもやらして、なあ。

昌

よっしゃ、ほな交替や。ともちゃんやつてみ。(交替する)ともちゃんがシンデレ

ラやつたら、おばあちゃんはなんや？

とも子

うーん、おばあちゃんは魔法使いや。

昌

魔法使いか。ほな、カボチャの馬車を用意せんとな。ともちゃん、ガラスのクツ

入るかあ？

とも子

入るよ。

昌

そうか。ともちゃんにも、素敵な王子様が現れたらええのになあ。

とも子

ふん。

昌

おばあちゃん、楽しみやわ。ほれ、ともちゃん、もつと力入れて。

とも子

ああ、しんど。これ雑巾がけより疲れるわ。

二匹

(手に水鉄砲。哲といつしよに水の掛合い) ニャーオー。

哲

何がニャーオーじゃ。待てー(海パンに水中眼鏡、水鉄砲、洗濯ブーツ姿)。

昌

哲ちゃん!

哲

あつ、おばあちゃん。お帰り。

昌

何がお帰りよ。

とも子

どこがお風呂掃除よ。水鉄砲で遊んでるだけやない。

昌

ああ、ああ、ああ、あー。しゃあないなあ。(笑)

とも子

びしょんこや。

昌

哲ちゃん、お風呂掃除、ありがとう。そやけどびしょんこにしてもたらあかん

がな。

哲

はーい。(去りかける) ああ、さっきお布団、入れといたでえ。

昌

ああ、ありがとう! ついでに洗面所も綺麗にしといてくれるかな。

哲

ええー、洗面所もー。

昌

ついでやがな。水鉄砲のついでや。ついでにちよちよつとやつといて。

哲

はーい。(しぶしぶ、去りかける。二匹の水鉄砲攻撃) こらあ、待てー!

とも子

大変な風呂掃除や。

昌

ほんまや。ああ、ともちゃん悪いなあ、さっき拭いたとこやのに。けど、そうや

とも子

つてちよちよつとやる癖がついたら、何でもラークラクのスイスイや。

とも子

ラークラクのスイスイ?

昌

ああ、何でも苦にならんとラークラクのスイスイ。

とも子

ふーん。ラークラクのスイスイか。(笑) ……ねえ、おばあちゃん。おばあちゃん「食う寝る出す干す」が大事やっつてよう言うてるでしょ。

昌

ああ、「心が喜ぶ・食う寝る出す干す。身体が喜ぶ・食う寝る出す干す。」や。

とも子

「食う寝る」はよう分かるねん。「出る」ってあれのことよね。

昌

正解！ ウンチや。

とも子

やっぱり！ そしたら「干す」って何？

昌

さあ、何やる？

とも子

お布団のこと！

昌

そうやな。今日は哲ちゃんが干してくれた布団で気持ちよう寝れるなあ。

とも子

やっぱりお布団のことかあ。

昌

布団も干したらふかふかになるし、梅干しも大根の漬け物も椎茸もお日さんによ
う当てたらうんと美味になる。朝起きてお日さん拜んでみ。そら気持ちがすと
晴れる。お日さんが昇らんと、世の中真つ暗やわ。

とも子

おばあちゃんはお日さん大好きやね。

昌

そうや、大好きや。何で分かるか？

とも子

何で？

昌

おばあちゃんの名前は？

とも子

おばあちゃん！

昌

ちがうがな。名前や。

とも子

ああ、昌や。

昌

どんな字や？ 書いてみ。

とも子

(指で各) ほんまや。お日さんが二つもある。

昌

なあ。(笑)

とも子

ああ、それでおばあちゃん、お日さんが好きなんかあ。ねえねえ、おばあちゃん。

昌

おばあちゃんの小っちゃい時って、どんな子やったん？

昌

えー？ おばあちゃんの小っちゃい時かあ？ そーら、可愛かったよお。

とも子

ほんまあ？ おばあちゃんも赤ちゃんの時があつたんや。

昌

当たり前やないの。おばあちゃんのまま生まれてきたら、ビックリやわ。(笑)：

とも子

：おばあちゃんが小っちゃい時は、日本はアメリカと戦争やったわ。

昌

ふーん。

夜、寝てたら、B29いうてアメリカの飛行機がいっぱい飛んできて、空からそこいら中に爆弾や焼夷弾を落とすていくんや。ウーン、ウーンって空襲警報が鳴ったら、みんな必死で山の方へ逃げるんよ。必死で駆け上った山の上から神戸の町を振りかえつたら、まあ、その爆弾が花火みたいでな、そつら綺麗かったわ。けど、その花火の下の神戸の街は丸焼けや。おばあちゃん、まだ小さかったけど、あの光景だけははつきり覚えてるわ。

とも子

へーえ。

昌

そやけど、逃げ遅れたら大変。防空壕いうて穴が掘ってあって、その穴にみんな避難するんやけど、爆風いうてスゴイ風で空の上は大きな材木や瓦やら、まあい

とも子

ろんな物がグルグル回ってるんよ。そーら、怖かったよお。
ふーん。

昌

必死で近くの防空壕に飛び込んだんやけど、その防空壕に爆弾が命中して、いっ
ぺん、おばあちゃん死んだんや。

とも子

ええっ！ ウツソー。

昌

ホンマよ。なあんか知らんけど、仰山、人が並んでて、おばあちゃんも同じ様に
並んでたんや。それでおばあちゃんの番になったら、向こうの方から「帰れ、帰
れ」言うのよ。

とも子

その向こう方って何？

昌

さあ、何やる。分らへんけど、「帰れ、帰れ」って。「今日は仰山の人が来て忙し
いから、おまえは帰れ、帰れ」って。それで、おばあちゃんこっちへ戻ってきた
んや。

とも子

えーっ、それ夢とちがうの？

昌

ちがうちがう、夢やない。周りの人もおばあちゃんが息吹き返したんでビックリ
したそうや。

とも子

ふーん。

昌

戦争は二度とゴメンやねえ。それに地震もな。

とも子

……。

昌

あー、ゴメンゴメン。地震のことは思い出したないもんね。

とも子

……。

昌

あー、堪忍堪忍。まだまだ時間がかかるわなあ。……トモちゃん。辛いことはみんな時間が解決してくれる。それまでは、お父さんとお母さんとの楽しかったことだけ思い出したらええ。まあ、それも辛いことかもしれないけどなあ。

とも子

……うん。……なあ、おばあちゃんは？

昌

うん？ 思い出すよお。孝も聡子さんも。まだまだ若いのに……なあ。

とも子

おじいちゃんは？ おじいちゃんのこと思い出す？

昌

そーら、思い出すよ。ええ思い出ばっかりをね。静かに静かに手を取り手を取り

I Love you I Love you ……。

とも子

何、その歌？

昌

いつまでもいつまでも……。うん？ この歌か？ 昔よう流行ったんよ。おじい

ちゃん、この歌大好きやったわ。

とも子

ふーん。……おじいちゃん、おばあちゃんのこと愛してたんや。

昌

うん？ まあ、そうかな？ おばあちゃんは愛されてたかな？ I Love you I Love

you いつまでもいつまでも……。

とも子

うん、きつとそうや。ふーん、ええなあ。

昌

ええかあ？ そうか。この歌、歌うと、おじいちゃん的笑顔が浮んでくる。

とも子

ほんま、ええ歌やわ。

昌

そうか、おおきに。……ええと、ここへ砂糖やな。えー、砂糖、砂糖つと。(持つ

てくる)

とも子

ちよつと、おばあちゃん。それお塩とちがう？

昌

ええ？ そんなわけないわ。(嘗めてみる)。あつ、ほんまや塩や。ありがとう。危機一髪や！ 間一髪！ 間違えて入れてたらえらいことでしたよ。あー、恐ろしい。

とも子

おばあちゃんすっかりしつかり間違えてえ。

昌

ほんますっかりしつかり間違えて、アカンなあ。

とも子

おばあちゃん、しつかりしてやあ。

昌

了解でおます。あー、ほんまにしつかりせんとアカンわ。えーと、砂糖砂糖。あ、ともちゃん、味噌とお出汁、取ってきてんか。(砂糖を入れる) こんなもんか。塩もちよいちよいと。味噌もこんなもんかいな。

とも子

ええ加減やなあ。

昌

目分量目分量。まあまあ、トモのおばあちゃんを信じなさい。

とも子

はい、了解でおます。なあ、おばあちゃん、交替！

昌

えー、大丈夫かいな。ちゃんと力入れてするねんよ。

とも子

はいはい、了解でおます。

昌

トモちゃん、さつきより上手や上手や。

とも子

エッヘン、どんなもんじやい！(すりこ木を手に)

昌

えつ、そう来るか。ほな、こーんなもんじやい！(シヤモジを手に) やればでき

る！

とも子

やればできる！ おばあちゃんの口癖やね。

昌

そうや。なんでも念じたらできるようになる。トモちゃんも、やりたいことやっ

てみたいことがあったら、それに向かって精一杯やってみることや。きつとできるようになる。

とも子 もしどうしてもできひんかったら？

昌 うーん、もしどうしてもできひんかったら、そら、しゃあないなあ。けど、できんでも精一杯やったらその分、諦めもつくし、きつとその精一杯は無駄にはならんと思うわ。

とも子 ふーん。

昌 けどなあ、年取ってきたら、なかなかそうはいかんみたいやねん。

とも子 なんや、今日はやればできる！のおばあちゃんらしいねえ。

昌 ほんまやな。……なあ、ともちゃん。年取るてな、心細いことやねんでえ。年取るってな、昨日できたことが、今日できひんようになるねん。ほんま心細い。この間も、電車に乗る思て駅まで行ったんやけど10分もかかってしもたがな。今までは7分あったら充分行けたのに……。ほんで、おばあちゃん、最後は走ったがな。走ったらな、ええ、今度は下から冷たいもんが流れてきよるねん。

とも子 ええ、冷たいもんで、何？

昌 何て、おっしこやがな。

とも子 ええ！

昌 あー、恥ずかし！ ああ、情けなあ。つくづく年とるもんちがうなああって思たわ。昨日は昨日で、なんぼやっても針に糸が通らへん。終いには手えまで震えてくるし……。なあ。

とも子

おばあちゃん、元気出して！

昌

ふん、おおきに。えーと、ここへ豆腐、豆腐。ともちゃん、冷蔵庫から水気絞った豆腐、取ってきてんか。

祖母

……なあ、……みんな、今日を精一杯いきましよう！とか、悔いのないよう生きましよう！とか、よう言いはるけど、そんなんは誰でもみんなよう分つてる。そうしよう思て毎日生きてますがな。けど、そうしよう思ても、できひんことが次から次に湧いてくる。身体の調子も次から次に悪なる。なあ、一体どうせえいのよ。

とも子

はい、お豆腐。

昌

ありがとう。(手が止まる)……ときどき、ボケるんちゃうるかと思たりする。(とも子、祖母の手からシヤモジを取り混ぜる) 自分はいったいどないなるんやろ、どうなつてしまうんやろつてな。(音楽)

とも子

おばあちゃん。あたし、おばあちゃんがボケてもおばあちゃん大好きやよ。

昌

そうかあ。トモちゃん、おおきに、ありがとう。それでな、おばあちゃん、この頃、自分でできることはなんかいなあつて、よう考えるんよ。おばあちゃんにできることは、あんたら若いものに繋ぐことちゃうやろかつてな。……なあんでもグルグルまわつてる。ものも、人のこころも、生命でさえもな。

とも子

グルグル回ってる？

昌

うん、そうや。何もかもグルグル回ってるんよ。なあ。そやから、ちゃあんとあんなら若いものに伝えとかんとなあ。

とも子

ふーん。伝えるって、おばあちゃん、何を伝えるの？

昌

何をて、いろんなことをよ。さっき言うた戦争のことも、やっぱり伝えなアカン。

とも子

ふーん。

昌

まあ、てな訳で、ともちゃん、白あえの作り方、よう覚えときや。

とも子

ええつ、そんなん無理や。そんなん覚えられへんわ。

昌

ふにやふにや言うてんと、やることやらな。どっこいしよつと。(立ち上がる)さ

あ、美味しい晩ご飯こさえようつと。トモチャーン、湯がいたほうれん草、ここへ入れてあえてんかあ。(すり鉢を持って上手へ去る)

とも子

はーい。(上手に去る)

幕前下手より、とも子

とも子

(去つていく二人を見送る) ……おばあちゃんと一緒に作った白あえの思い出。あんなに大きかったおばあちゃんの背中が、小っちゃく見えて……。私はまだ子どもやったけど、おばあちゃんが一人の女性として、私の中に入ってきた瞬間でした。寂しいような、嬉しいような……。その夜、食べたほうれん草の白あえはほろ苦い思い出となりました。

さて、驚かないで下さい。白和えの思い出から数年経ち、あの可憐な少女トモ子はグッと成長し、あつという間にヤンキーのトモ子となりました。私、トモ子です。笑わないで下さい。それでも駅前コンビニ前にたむろしてる仲間内ではブイブイ言わしてるんですから。ほら、やって来ましたブイブイ仲間。(仲間に加わる)

音楽 バイクの大騒音 パパパプー ブイブイ仲間がやって来る。
奇声を挙げるブイブイ仲間 タマもゴロもブイブイ仲間の一員

なぜか哲夫が先頭を切っている。

とも子

ちよつと哲ちゃん。あんた、何してんの？

哲

何て、見たら分るやろ。俺がブイブイ仲間の頭や。

とも子

姉ちゃん差し置いて、何考えてんのよ。アホ！ 頭は私や。オイ、行くぞ！

哲

えー。お姉ちゃん、待ってえよ。(去る)

タマ

ブイブイ、ブイブイ。哲ちゃん、哲兄い、待ってー。ブイブイ、ブイ

ブイ。

ゴロ

ブイブイ、ブイブイ。ともちゃん、頭あー、とも姉御おー、待ってー。ブ

イブイ、ブイブイ。

タマとゴロが、ブイブイブイブイ、三輪車で追いかける。

バイク音が遠のく

冬

月明りの中、とも子が出て行こうとしている
いきなり灯りが点く

昌

とも子

大きい荷物持って、こんな遅うにお出かけかいな。

昌

とも子

おばあちゃん、堪忍。どなしても行かなアカンねん。(行きかける)
ちよつと待ちなさい。

昌

とも子

アカン。止めんといて。理恵が待ってるんよ。そやから、どなしても行かなあかんねん！
待ちなさいって。

昌

とも子

アカンねんて。ホンマに急ぐねんて！
ちよつと待ちなさいって。

昌

とも子

もうええやん！ 放つといてよ、もう子どもやないし。

トモはもう子どもやないんか。何でも一人でやっていけるんか。

ああ、誰の世話にもならんと一人でやっていけるもん。そやから放つといて。

昌

誰の世話にもなっていないか

とも子

ええ、誰の世話にもなってません。

昌

ほな、その服、脱いでいき。

とも子

えっ？

昌

早よ脱いでいき。

とも子

何だよ。これは私のもんやわ。

昌

ちがう。スカートも脱いで行き。

とも子

おばあちゃん、なに言うトン？

昌

あんたが今身につけてる物は皆、あんた一人の力で手に入れたんか？

誰の世話

とも子

そんな…。

昌

出て行くんやったら、スカートもパンツも皆脱いで、スットントンで出て行きな

さい。

とも子

スットントン？ そんな無茶な…。おばあちゃん、もう放つといてよ。（行こうと

する）

哲

（帰ってくる）姉ちゃん、もう行かんでええ。

とも子

哲ちゃん。

昌

その頭の傷、何。ああ、ああ。ちよつとここへ座って。

哲

痛たたたたつ、痛いって、おばあちゃん。

昌

これ、ちゃんと見せなさい。ちゃんと消毒しとかんと。（薬箱を取りに行く）

哲 姉ちゃん。俺、ケリつけてきたったで。

とも子 理恵は？ 理恵はどうしたの。

哲 大丈夫や。理恵の兄貴らもすつ飛んできてくれて間一髪！ 警察も加わっての大乱闘や。もうちよつとでしよつ引かれるとこをスルツと逃げてきたった。あいつら、今ごろ一網打尽かな。ああ、危なかったー。

とも子 哲ちゃん…。

哲 何があつたんか知らんけど、姉ちゃんも理恵もあんなしようもない奴に引つ掛かんや。ええ格好ばかり言うて、どうせ、騙されるんがオチや。あーあ、俺もそろそろブイブイ言うの止めよかな。ええ潮時かもな。

とも子 ……。

哲 毎晩毎晩遅うまで、寝たふりして待つとうおばあちゃん。 ……なあ姉ちゃん。こころでよう考えな。なあ。

昌 (奥から消毒薬を手に) 哲ちゃん、これで消毒しとこ…。

哲 あー、しみるー。痛いー。

昌 これ位の傷、何じゃ。しやあない子やなあ。

哲 もうええて。自分でするから(薬を取る)。ほな、おやすみ。 (去る)

とも子 ……。

昌 トモちゃんよお。もう子どもやないトモちゃんよ。自分一人で生きてるなんて大きな勘違いやよ。地震の時のこと思い出して。 (音楽)

とも子

止めてよ、そんな話。

昌

いいや、今日はちゃんと聞きなさい。あの時、あんたら子どもを庇うてあの世へ逝ってしもた孝と聡子さん。お父さんもお母さんも命を賭してあんたらを守ったんやで。トモの生命はあんた一人のもんか?! アホ言いな! お父さんやお母さんあつてこそそのトモやないか。

とも子

おばあちゃん(泣き出す)

昌

人はひとりでは生きられへん。どんな威張つて誰の世話にもなつてへんいうても、そうはいくかいな。なんでもぐるぐるまわつてるんや。ものも、人のこころも、生命でさえもなあ……。なあ、トモちゃん。お父さんとお母さんにバトンタツチして貰つた生命、もつと大事にせんと。このことを分かつて生きるのと、そうでないのとは、えらい違いやでえ。

とも子

(大声で泣き出す)

暗転

四

秋 朝 とも子宅の食卓

英二がコーヒー片手に新聞を拡げている

綾が起き出してくる

おはよう。

ああ、おはよう。えらい早いな。

うん、今日は朝練があるんよ。

トランペットか？ えらい熱心にやっとなるねえ。勉強もそれ位熱心やったらな。

へっへー、そうは問屋が下ろさじですね。ねえ、お母さんは？

洗濯物、干してるんちゃうか。

ふーん。お父さん、パンは？

いらん。

二日酔いや。

煩い。

綾 英二
綾 英二
綾 英二
綾 英二
綾 英二

綾 英二 お父さん、二日酔いにはお水！

綾 英二 なんや。

綾 英二 なによ。昨夜はお父さんと哲伯父さん、私らに早う寝え早う寝え言うといて、遅うまで飲んでたんじゃ。

綾 英二 まあな。

綾 英二 ほどほどにせんと、アカンよ。

綾 英二 大人の付き合いやがな。

綾 英二 付き合いねえ。

綾 英二 なんや、その口の利き方。お母さんそっくりになつてきたがな。

綾 英二 そらしゃーないやん、親子やねんもん。

綾 英二 おい、もうちよつと親を敬もうたらどうや。

綾 英二 敬う？

綾 英二 そう。上は下を慈しみ、下は上を敬う！

綾 英二 敬もうてるやん。

綾 英二 え？

綾 英二 二日酔いに効くお水。もう一杯要る？

綾 英二 もう、お前は。世の中、上も下もあつたもんやないなあ。あんな、なんで上も下ものうなつてもたか知ってるか？

綾 英二 そんなん、知らんわ。

綾 英二 全自動洗濯機や。

綾 英二 えー、洗濯機？

英二 ああ。前は二層式いうて、顔を拭くタオルなんかは先に洗って、その後でパンツなんかの下着を洗いよったんや。それが全自動になってからは、上も下も皆一緒。それからや、男が女の尻にひかれるようになったんわ。

綾 そやねえ、お父さんはお母さんにめっちゃ弱いモンねえ。

英二 まあな。(笑) あー、もう出かけなアカン。行ってくるわ。

綾 お母さん。お父さん出かけるよー。

英二 呼ばんでええよ。また、偉そうに言われるだけやがな。

綾 そうやねえ。

英二 え？

綾 はい、お弁当。

英二 弁当さえあつたら十分。ほな、行ってくるわ。

綾 今日も遅いん？

英二 ああ、いつも通りやいうてお母さんに言うというて。ほなな。(英二、出かける) 行つてらっしゃい。

綾 (空の洗濯籠をもって) あら、お父さんは？ もう出かけたの？

綾 うん。ちゃんとお弁当渡しといたよ。

綾 ああ、ありがとう。

綾 今晚も遅なるって。

綾 とも子 あっそう。朝早うから夜遅うまで、よう働いてくれはるわ。(2度目の洗濯に忙し

優衣

綾

優衣

綾

優衣

綾

優衣

綾

優衣

とも子

優衣

綾

優衣

とも子

優衣

綾

優衣

綾

い)

……(ゲームをしながら)。

おはよう。

……。

おはようって。

……おはよう。

気のない返事やなあ。はい、スープ。今日のスープ美味しいよ。

……うん。(ゲームしながら一口スープをすする) あー、これ美味しい!

そやからさつきから美味しいよって言うてるやないの。(スープをすする) あー、

美味しい!

ほんま美味しい!(最後にはお皿をなめる)

これ。いくら美味しいからってお皿までなめてどうするの。ネコやあるまいし……

ネコ? ううううん、ネコやないよ。(綾に) ねえ。

優衣、シッポは?

えっ!

そういうたら、優衣、あんた、前に飼うてたネコに似てない?

えー、私、前世はネコやったん? そんなアホな。ねえお姉ちゃん。

ふふーん、橋の下のだぶネズミかもね? チュウ!

えっ、どつかで聞いたことのあるセリフ? ねえ、お姉ちゃんもネコやったの?

お姉ちゃんはどつかの国のお姫様やったと思うわ。

優衣

綾

とも子

優衣

綾

とも子

哲

綾

哲

優衣

綾

哲

綾

哲

綾

優衣

哲

綾

何だよ。お姉ちゃんはお姫様で、何で私はどぶネズミなんよ！

当然やん！

なんでもぐるぐるまわってる。ものも、こころも、生命でさえもっていうからねえ。

何それ？

お母さん、おばあちゃんと同じこと言うてるわ。

あ、ほんまや。これ、おばあちゃんの口癖やったね。（洗濯物を干しに行く）

おはよう。

おはようございます。おじちゃん、パンは？

いや、コーヒーだけ貰うわ。昨日はちよつと飲み過ぎた。

（ゲーム中）昨夜はお父さんもめっちゃご機嫌やったわ。

久しぶりにおじちゃんと一緒に飲めて、嬉しかったみたいよ。

へー、そうか。

はい、コーヒー。

オッ、ありがとう。昨日、やつとこつちでの仕事が一段落や。うーん、旨い！

綾

ちゃんが入れてくれたコーヒー旨いわ。
ウツソー、インスタントやでえ。そんなおセイジ言わんでもええのに。

おセイジやないがな。旨いモンは旨い！

ありがとう。おセイジでも美味しい言うてくれたら嬉しいわ。おじちゃん、新幹

線の時間は？

哲 綾 哲 綾 哲 綾 哲 綾 哲 綾 哲 優衣
とも子

新神戸九時四十分や。

それやったら十分時間あるね。

あれ、英二さんは？

お父さんはとつくにしかけたみたい。

えらい早いねなあ、現場監督さんは。

そうよ。誰よりも早う行って誰よりも遅うに帰ってくるねん。

そやのに昨日遅うまで、付合うてくれたんか。そら、申し訳ないことしたな。

ごちそうさまでした。優衣、ゲームやめときよ。またお母さんに叱られるよ。

優衣ちゃんはいちゆつくり食べてるけど、大丈夫なんか？

うん、大丈夫。お姉ちゃんみたいに朝練ないしね、私はゆつくりでええねん。

そうかあ。(綾がカバンを持ってくる)綾ちゃん、もう出かけるんか。早いなあ。

うん。吹奏楽の朝練。

ああ、トランプペットやってる言うてたな。

はい。

おっちゃんも、昔、トランプペットやってたんやで。

ええ、おじちゃんも？

ああ、結構上手かったんや。

ほんまに？ 今度、来たとき聴かして。

よっしゃ。

綾、はいお弁当。

綾

お母さん、ありがとう。

とも子

優衣、朝からゲームはやめなさい。

綾

ほら。

優衣

もう。

とも子

もうって何？

優衣

はーい。

綾

行ってきます。

とも子

帰りは？

綾

部活で遅なるかも？

とも子

何時ごろ？

綾

うーん、今日も練習終るの、遅いと思うわ。

とも子

あんまり遅いようやったら連絡頂戴ね。

綾

うん、スマホ持ってくから大丈夫。そしたら、おじちゃんまたね。

哲

ああ。これから、出張で時々大阪へ来ることがあるから、また寄るわな。

綾

うん。いつでも寄って。お土産楽しみにしてるわ。

哲

よっしゃ。やっぱりケーキか？

優衣

うん、モチよ。ネ！

綾

(笑) ほな、行ってきます。

とも子

いってらっしゃい。

優衣

ごちそうさまでした。

哲
優衣

とも子

哲

とも子

哲

とも子

哲

とも子

哲

とも子

哲

とも子

哲

とも子

ほんま、特別ゆつくりやなあ。

うん、いいのいいの。(ゲームしながら部屋へ)

なにがトランプペットやってたよ。哲ちゃんが吹いてたのはブイブイ仲間の先頭をきってパフパフ鳴らしてただけやないの。綾の吹奏楽とはえらい違いやわ。

パフパフ、パフパフ。そない言いなや、吹いてたことには変りないがな。そやけど、あつと言う間やなあ。震災からもう20年やもんなあ。

ほんまに早いもんやね。

ブイブイ仲間はみんなないしとんやろ。

みんなちやーんと大人になって家庭持って子育てしてるわよ。

そうかあ。けど、姉ちゃんが結婚して英二さんと一緒にこうやっておばあちゃんちに住んでもらえて大助かりや。俺は東京であんまり帰って来られへんしなあ。

哲ちゃん、今度こつちへ帰ってくるときは前もって知らせてよ。

すまん。急に出張が決まって大あわてで来たから。

おばあちゃん、折角やのに会って帰ってほしかったわ。

姉ちゃんからよう謝つといて。今度またゆつくり来るいうて。で、元気にしてる

か？ おばあちゃん。

うん、まあねえ。

どないなんや？

うん、あんまりええとは言われへんけど、なんとかグループホームにも馴染んで

元気にしてる。

哲

とも子

相変わらず呆けとる？

哲

まあ、もう年やからね。誰しも年取ったらしやあないかな。あんな、これは同僚から聞いた話やけどな、同僚のお父さんがやつぱり認知症で大変やったんやて。昼夜逆転して夜中に勝手にひとり出て行って、そこら中、捜しまわってもおらへんし。そしたらエライ遠いところで警察に保護されてて。それから一時もお父さんから目離されへんし、なんやしらん「財布がない。お前、取ったやろ！」言うてエライ怒りっぽなるし、そら家族みんなが大変やったみたいや。

ふーん。それ、おばあちゃんにも当てはまるかも？

とも子
哲

え？

とも子

財布は言うたことないけど、物がないというのはいしよっちゅうやよ。前なんか、「換気扇から人が入ってくるー！」いうて騒いでた。

哲

えー、換気扇で台所の換気扇？ いやあ、あんなところからは入って来られへんやろ。

とも子

けど、そう言うて一晩中、換気扇とにらめっこしてたわ。にらめっこして…？

とも子

人が入ってこうへんように見張ってたんどちがう？

とも子

えー、一晩中？ おばあちゃん、大丈夫かいな。大丈夫よ。その程度でひるんでたらおばあちゃんと一緒に暮らされへんわ。お姉ちゃん、大変やなあ。

哲

とも子

私だけやないわ。英二さんも綾も優衣も、家族みんなが振り回されて、そーら大変やってんから。

哲

そうやったんか。

とも子

そう、おばあちゃんが病気やということが分かるまではね。けど、病気やということがわかったら、ああ病気なんやということで納得できるし対処もできる。

哲

ふーん。えらいなあ。

とも子

今はグループホームでお世話になってるから、まあ安心やわ。けど、ホームに慣れるまで、そら大変やったんよお……。

哲

やっぱり、帰りがったんか？

とも子

そう。4階の部屋から1階の事務長さんの所まで、1時間おきにやって来ては、「こんな所に居たらアカンのです。早よ帰ってご飯の仕度をしてやらんと。と

も子と哲がお腹空かして待ってるんです」って言うんやて。

哲

ふーん。

それ聞いたときは、もう切のて切のうてやりきれんかったわ。

哲

そうかあ……それはちよつと辛いなあ。

とも子

けど、暫くしたらホームで珠恵さんという仲のいいお友だちができて、どうにか落ち着いてくれたんでホツとしたんやけどね。

哲

そうかあ。

とも子

その珠恵さんとおばあちゃんとの会話は最高よお。

哲

ええ？

とも子

お互い全然別のことを言うてるんやけど、なぜか最後はちゃんとお話で成立してるんよ。端で見てたらお腹が痛いくらい面白いよお。

哲

へーえ。

とも子

あ、そうそう。それでその同僚のお父さんはどうなったの？

哲

うん。思い悩んで病院へ連れてったんやて。そしたらいっぱい薬を処方されて、それを家できっちり飲ませてたら、症状が良くなるどころかもっと酷くなつて前

よりもっと大変なことになったらしい。

とも子

えー！

哲

それで、思い切つて別の病院に連れて行ったんやて。そしたらその先生は「薬

はできるだけ少ない方がいい」いうて、それまでいっぱい処方されてた薬をグツと減らして、別の薬を一種類出してくれたんやて。そしたらそのお父さん、嘘みたいに怒りっぽいのも治つて、笑顔で話せるようにまであつたらしい。

とも子

えー、何それ？

哲

うん。なんか「薬の副作用が問題です」やて。

とも子

薬の副作用？

優衣

あーもう、遅刻やあー。(走ってくる。手にはゲーム機とカバン)

とも子

もう、あんたは。またギリギリまでゲームしてたんでしょ。

優衣

してないよー。あー、あかん、急がな。

とも子

(素速くゲーム機を取上げ) はい、学校へは持込み禁止です。

優衣

もう。行ってきまーす。

とも子

優衣

哲

優衣

とも子

哲

とも子

哲

とも子

哲

とも子

シャツ！ ちゃんと入れなさい！

(途中で戻ってきて、シャツを入れながら) おじちゃん、ケーキね！

よっしゃ！ 任しとけ。早う行かな遅刻やでー。

はーい。(出かける)

優衣、ボタン！！ もう、早起きしてるくせして、毎朝あの調子ですわ。

ほんま特別ゆつくりが、最後は大あわてやがな。

ほんまに。……優衣ね、ついこの間まで学校へよう行かんかったんよ。

えー、登校拒否かいな。

まあ、そんなとこかな。何が原因やったと思う？

イジメか？

イジメというか……。ねえ、昔、おばあちゃんがよう私らの話を聞いてくれたで

しよ。覚えてる？ 「さあ、今日のうれいこと、聞かせてもらおかあ」言うて、

「一日に一回くらい嬉しいことが転がっとうはずやお」言うて、私らのいろん

な話、聞いてくれたやん。

ああ、よう覚えてる。今から考えたら、毎日忙しいのに、よう時間かけて俺らの

取り留めもない話、聞いてくれてたで。

優衣になんかあったらあかん思て、私もおばあちゃんを見習つて、時間かけてじ

つくり優衣の話を聞いてやるようにしたんよ。そしたら、何のことはない原因は

ゲーム機やったの。

ええ？

哲

とも子

哲

とも子

綾が欲しがらへんから、優衣にもゲーム機なんか必要ないと思て、買ってやらんかったんよ。そしたら友だちと話があわんかったみたいで、何となく仲間はずれになったみたい。

哲

ふーん、ゲーム機でねえ。

とも子

で、ゲーム機買ってやったら、もう肌身離さず四六時中ゲームよ。まあ、それで学校へは行くようになってんけどね。

哲

ふーん。まあ、他人が持つとたら欲しいのが人情やからなあ。

とも子

けど、みんながみんな横並びにゲーム機でゲームして、それができんと友だちになられへんて、なーんや変な時代やわ。

哲

なかなか自分は自分、他人は他人とは思われへんからなあ。けど、元気よう学校へ行ってるんやったら、それはそれでよかったやん。

とも子

まあねえ。ねえ、それで、さつき話してた「薬の副作用」てどういうこと？

哲

うん。認知症にもいろいろな認知症があるんやけど、数年前までは一種類の薬しかなかったらしいんや。で、その薬はアルツハイマーにはよう効くけど、他の認知症には治すどころか全く反対の酷い副作用、例えば幻覚や幻視が出るんやて。

とも子

ええー。

哲

けど、まだよう認知症のことが分かってないから、とにかく医者はその一種類の薬だけをどの患者にも処方するらしい。で、患者は副作用でもっと酷い症状になるんやけど、それを医者に訴えたら、「それは大変ですなえ」とまたその一種類の薬の量を増やすんやて。

とも子

哲

えー。そしたらその患者さん、もつと酷くなるんやないの？

そうやねん。けど、認知症のことをよう知らん医者は今まで患者が良うなったのを見たことないから、副作用が原因で酷くなっても「病気の進行が早いですね」言うて、またその副作用のある薬の量を増やすらしい。

とも子

哲

あー、恐ろし。そんなことあるの？

あるみたいや。

とも子

哲

ふーん。

とも子

まあ、今は他にも新薬が出てきて、認知症も大分研究されてきてるらしいけど。これからは高齢化社会やもんね、認知症はおばあちゃんだけの問題やないわよね。

哲

哲も気をつけてよ。

とも子

なんで俺が気をつけなあかんねん。

哲

若年性の認知症も多いらしいよ。

とも子

脅かすなや。

哲

何にしてもいろんな意味で肥満は大敵らしいからね。

とも子

今、欧米でも日本食が見直されてきてるんよ。昔の日本人は肉食より魚や野菜中心の食事やったでしょ。雑魚で出汁を取った豆腐の味噌汁とか、薄上げとお菜っ葉の炊いたんとか、筑前煮みたいな根菜類や豆類にキノコ類、わかめや昆布なんかの海藻とかね、食物繊維いっぱい食事やったんよ。それが今や哲ちゃんみたいな野菜嫌いの肉肉肉の肉好きがいっぱいなんやもん。栄養の偏りもええとこや

わ。

哲 そんなん言うても、野菜なんかより肉大きい好きやもん、しゃーないやん。
とも子 しゃーないやないの。ほら、最近腸内フローラいうて腸内細菌の働きが見直されてきてるでしょ。

哲 腸内細菌？

とも子 そう、腸内細菌と認知症が深い関係にあるらしいって、痩せてる人に多い腸内細菌っていうのがあって、その腸内細菌が多いと認知症になりにくいって、この間、どっかの偉い先生がTVで言ってた。そやから腸内細菌の働きのためには食物繊維をいっぱい摂らんとあかんて。

哲 ふくん、そうなんや。

とも子 そやから肉肉言わんと、食物繊維いっぱいバランスのいい食事をとってくださいよ。それだけでダイエットにもなるんやから。

へーい。

とも子 ほんまやよ、おばあちゃんのこともあるし、ここで哲ちゃんに倒れられたりしたら大変やわ。

哲 はいはい、ダイエツトして認知症予防につとめます。……おばあちゃんのこと、ごめんな、俺、何もできんと。

とも子 しゃーないやん、離れて暮らしてるんやから。

とも子 あーあ、早う山中教授の i p s 細胞で認知症が治せるようにならんかいなあ。
とも子 ほんまや。ほんまにそうなたらええのにねえ。

哲

とも子

哲
とも子

ほな、俺、ぼちぼち帰るわ。すまんけどおばあちゃんのこと頼みます。英二さんに昨夜は遅うまでありがとって、よう言うといてな。

はいはい。ほな、また寄って。今度は前もって電話ね。ちゃんとおばあちゃんに顔見せたげてよ。

うん、分かった。ほな。
気いつけてねえ。

暗転

音楽

転換

五

深夜のグループホーム

音楽に乗って踊る昌と珠恵

すつ飛んでくる介護士

介護士 何してるんですか、こんな夜中に！

二人 体操ですがな。

介護士 えっ、体操？

二人 はい、たいそうに体操。

介護士 な、何がたいそうに体操です？ 二人揃って何をしてるんです。静かにして下さいよ。

二人 シーッ！ 静かに！

介護士 どうしたんです。

二人 ベッドの下。

介護士 え？

二人 ベッドの下です。

介護士
二人
介護士
二人
介護士
二人
介護士
二人
介護士
二人
昌
二人
介護士
二人
介護士
珠恵
介護士

え？ ベッドの？（ある体で、懐中電灯を手に覗く）え？
そやからベッドの下よ。

いや、何もありませんが…。

またあ、とぼけて。（笑う）

ええ？（もう一度覗く）いや、何もありませんが……。

いやあねえ。（笑う）

えー、何かあるんですか？

十億円。

ええっ、十億円！

そう十億円。

私たちのものなんです。

ああ、ああ、そう。そうですか。

なんならお分けしましよか？

はい？

一億くらいなら

いつでもどうぞ。

あつ、はい。

もう嬉しくって。十億十億十億！（踊り出す）

（二人を静止して）ああ、そうそう十億円十億円ですわね。お二人ともよかったですねえ。ぜひ、私にも一億分けて下さい。

珠恵

(急に携帯を持ち出し) もしもしそちら110番ですか。

介護士

えーっ!?

珠恵

(敬礼) ご苦労様です。こちら珠恵です。

昌

こちら昌です。

珠恵

今、泥棒がおるんです。

昌

スグ横に。

二人

十億円泥棒が!

介護士

えっ? いやいや、ちよつと待って下さい。

二人

君、住所は?

介護士

え、住所? 珠恵さん、ちよつと電話、代わりましょ。

珠恵

な、何をするんです。ドロボー! 泥棒です。

二人

助けてー!

介護士

ちよ、ちよつと待って下さいよ。

二人

君、年齢は?

介護士

えっ、私? いや私は……。

珠恵

えー! 自分の歳が分からない?

二人

これは問題ですねえ。

昌

はい、ここで問題です。いいですかあ?

介護士

後でもう一度おたずねしますので、次の三つの言葉を覚えて下さい。桜、猫、電車。

えー、桜、猫、電車(必死で覚えようとする)。

珠恵

では次は、百から七を引いて下さい。

介護士

百から七？ えー、九十三、えー、九十三から七を引くと……。えー……。？

二人

チツチツチ、カーン！

昌

では、先ほど覚えた三つの言葉を言ってみましょう。

介護士

えー！ 三つの言葉、三つの言葉、えー、桜、えー、いや梅？ えー？

二人

チツチツチ、カーン！

珠恵

では、もう一度おたずねしますが、あなたのお歳は？

介護士

えー？ いや、あの…私は…。

二人

カンカンカンカン、カーン！

介護士

まあー、失礼な！！ そしたらお二人のお歳は？！

二人

?????…忘れたあ。

介護士

えー？！

昌

そうそう思い出しました。

珠恵

花も恥じらう

二人

十八よ！

音楽 二人して踊る 暗転

サスライト 介護士。手に携帯。

介護士

……はい、そうなんです。夜中に同室の珠恵さんと二人で踊り、いえ、体操をし

とられて、はい、体操です、夜中に。はい、そうなんです。ほんとにもう困るんですよね、たいそうに体操を。えっ？ いえ、何でもありません。はい、それで昌さん、大腿骨を骨折されました、大腿骨頸部骨折です。はい、緊急入院です。えー、病院は市民病院の、はい、救急外来まで、そうです、救急外来です。すみませんが、至急いらして下さい。

救急車の音
暗転

冬

明転
幕前

とも子

骨折で入院したおばあちゃん。おばあちゃんは入院してからもアッチとコッチの世界を行ったり来たり。スイッチが入るとアッチの世界へ入り込み、治りかけの足を引きずり引きずり、病院内の同じ場所を行ったり来たり。看護士さんがいくら諭しても言うことを聞きません。長いときは半日以上、夜中であっても同じ行動を繰り返すそうです。そうかと思うと、今度はベッドから起き上がろうとしません。どんなに言っても「もうええねん、もうええねん」を繰り返して、一歩たりともベッドから出ようとしません。とうとう寝たきり状態。あまり元気がありません。でも、時折見せてくれるおばあちゃんの笑顔にほっとします。コッチの世界に居るときは、いつも通りのおばあちゃん。楽しい会話が弾みます。(音楽)

それを楽しみに、ちよっとしたおやつを手土産に、私は今日もおばあちゃんの病

室を訪ねます。

音楽

商店街、市場の賑わい

とも子

さあ、今日は何買うたげよかな？（商店街の店先を物色）何がええかなあ？（通りがかった知り合いから声がかかる）ああ、おはようございます。はい、ありがとうございます。お蔭さんでおばあちゃん、何とか元気にしています。はい、ありがとうございます。はい、おばあちゃんに言うときます。（また物色）今川焼がええかな？ 熱々の焼き芋もええなあ。（また声がかかる）はい、お蔭さんで、ありがとうございます。うーん、やっぱり果物がええかな。

とも子

おばあちゃん！ 今日も来たよお。

昌

……あんた誰？

とも子

おばあちゃん。

昌

トモちゃんかいな。

とも子

そうよ、トモよ。忘れんといてよ。あー、寒かった。今日も表、寒いよお。早よ、あったこなったらええのにね。

昌

……。

とも子

今日のおやつはイチゴやよ。小っちゃよう切ったげるから、食べてね。

昌

……。

とも子

途中で八百屋のおっちゃんが「昌ばあちゃん、元気かあ？」って声かけてくれたよ。「うん、元気やよ〜」言うといた。

昌

……

とも子

何や、おばあちゃん、どうしたの？ 今日元気がないのかな？

昌

……なんやなあ、ときどき、自分が自分でなくなるときがある。自分がちがう人になるときがあるみたいや。

とも子

……おばあちゃん。(音楽)

昌

怖いねん。怖うてしやあない。

とも子

何が？ 何が怖いのか？

昌

自分や。自分が怖い。

とも子

えっ？

昌

もう、おばあちゃん訳、分らへん。……ごめんなあ。おばあちゃん、こないに呆けてしても……堪忍してなあ。

とも子

おばあちゃん……。おばあちゃん、何にも呆けてないやん。それに私、おばあちゃんごめんなあ、ごめんなあ。

昌

ごめんなあ、ごめんなあ。

とも子

いややわあ、おばあちゃん、何、泣いてんの？ おばあちゃんにメソメソは似合わへん。ほら、元気出して、いつもの笑顔見せてよ。

昌

看護師さんが来て、何か言いはるんやけど、ようわからんのよ。なんかおばあち

やん悪いことしたんか？

とも子 おばあちゃん、何かしたの？

昌 それがようわからんよ。

とも子 大丈夫、大丈夫！

昌 看護士さん、何や言いはるんやけど、何言うてんるんかわからへん。なんや怒ら

れてるようにはしか思われへん。おばあちゃん、そないに悪いことしたんか？

とも子 大丈夫！ おばあちゃんは絶対悪いことはせえへんよ。

昌 そうやなあ、おばあちゃん、悪いことしてへんよなあ。

とも子 うん、してない。おばあちゃんは悪いことしてないよ。

昌 そうやなあ、絶対してないねえ。

とも子 うん。してない、絶対してない。

昌 ごめんなあ、ごめんなあ。

とも子 止めてよ、おばあちゃん。アホやなあ、私まで泣けてくるやん。

昌 ごめんなあ、ごめんなあ。

とも子 何、謝るんよ。おばあちゃん、謝ること何にもないやん、何にも悪いことしてへ

んのやから。それより、ちよっとおばあちゃんのをええ笑顔見せて。私、おばあち

やんの笑顔見んと安心できひんわ。

昌 そやなあ、そやなあ。(笑う)

とも子 ああ、笑ろた笑ろた。泣いたカラスがもう笑ろたやねえ。(二人、笑う)

昌 ほんまやなあ。

とも子

イチゴ、持ってきたよ。食べる？

昌

欲しない。

とも子

そう。そしたら、ここに置いとくから後で食べてね。

昌

……。

とも子

ねえ、おばあちゃん。何か他に欲しいものない？ 何か食べたいものないの？

昌

……何にもない。

とも子

そんなん言うたらアカンわ。何かあるでしょ。お巻き、買うてこうか？ それと

昌

もおばあちゃんの大好物のネギ焼、買うてこうか？

昌

お好焼きか……。何も欲しない。

とも子

そしたら、おばあちゃんの「うれしいこと」教えて。

昌

うれしいこと？

とも子

そうや、おばあちゃんの「うれしいこと」。おばあちゃん、「うれしいこと」見つける名人やったやん。小つちやい時、いつも寝る前に私と哲に、「さあ、今日の

昌

うれしいこと、聞かせてもらおかいなあ」言うて、「どんなしんどい時でも辛い時

昌

でも、一日に一回くらい嬉しいことが転がっとうはずややお」言うて、私らのい

昌

ろんな話、聞いてくれたやん。

昌

そうやったかいなあ。

とも子

そうよ。お風呂呂に入ってホコホコのままお布団に入って、おばあちゃんと一緒に

昌

寝っ転がって。私も哲っちゃんも毎晩楽しみやったわ。おばあちゃん、忙しいのに、

昌

私らの話、よう聞いてくれたもん。

昌 そうかあ。

とも子 うん、そうよお。ねえ、おばあちゃん。おばあちゃんの夢はなに？

昌 夢？

とも子 そう、夢。おばあちゃんの今一番の願いよ。何？ とも子、おばあちゃんの一番の願い、何でも聞いたげる。

昌 そうかあ。

とも子 何でもええから言うて。

昌 そうかあ。

とも子 そうかあ、そうかあばっかり言わんと、おばあちゃんの今一番の夢、聞かせてよ。

昌 ……夢か。

とも子 夢は念じたら叶う、やればできるっておばあちゃんいつも言うてたやん。

昌 夢なあ……。

とも子 うん、おばあちゃんの夢よ。

昌 おばあちゃんなあ、帰りたい。おばあちゃんなあ、家へ帰りたい。おばあちゃん、

とも子 家で死にたい……。

とも子 おばあちゃん……。

音楽

とも子を残り、照明変化

……あの地震の時、お父さんとお母さんが亡うなつて途方に暮れてたあたしをおばあちゃんが「一緒に暮らそ。」言うてくれた。私ら、それから、どれほどおばあちゃんの世話になつたか。おばあちゃんにどれだけ励まされたか、分らへん。おじいちゃんだけやのうて子供らにも先立たれて、誰よりも悲しかったんはおばあちゃんかもしれへんかったのに。……私、おばあちゃんにお返しをしたい。今ここでおばあちゃんを引き取らなかつたら、もう恩返しするときあらへんかもしれん。そう、そうなんよ。なんでもグルグル回つてるんよ。ものも、人のころも、生命でさえもね。……よし。おばあちゃん。やればできる。念じたら……。(携帯電話) もしもし、哲ちゃん。うん、そう。おばあちゃんをグループホームに帰すんやなくて、家に連れて帰りたいんよ。うん、そう。家のみんなに「おばあちゃん引き取つたら、またあの大変な生活が始まるのよ。みんな、大丈夫？」つて聞いたら、綾も優衣も「大丈夫」つて。「私らも家でひいばあちゃんのお世話してあげたい」つて。うん、そう、そうなんよ。英一さんも「せひ、そうしたげ」つて。うん、大丈夫。私ら、あの地震を乗り越えてきたんやもん、怖いもんなんかあらへんわよ。やつたらできるわ。えっ、哲ちゃん、お金出してくれるの？ あ

りがとう！ うん、助かるわ。家もいろいろ改装せんとあかんしね……。うん、ありがとう！ ほなまた、連絡するわ。うん、ありがとう。(電話切る) ……哲ちゃん、ありがとう。

……おばあちゃん。やればできるわ。念じたら、いろんなことが上手くいきだしたよ。なんでもグルグル回ってる。おばあちゃんの言うとおりよ。おばあちゃん、おばあちゃんの夢、みんな叶えるよ！。

暗転

音楽

夜空

一番星がひとつ

周りから家具やあらゆるものを押してみんなが静かにやってくる。

舞台奥からとも子がおばあちゃんの眠るベッドを押してくる。

徐々に加わる。パジャマ姿の家族たち。

幼き日のとも子も猫たちも加わる。

最後に壁が下りてくる。

お家、完成。

いつの間にか満天の星空

家族がベッドを取り囲む

全員

昌

おばあちゃん、おやすみなさい。(昌一人残し、静かに去る)

(ゆっくり起き出す) ああ、おやすみ。……静かに静かに手を取り手を取り I Love

you I Love you いつまでもいつまでも……。……家や(音楽)、我が家や。……

あぁ、生きててよかった。みんなに出会えて、よかった。生まれてきてよかった
……。トモチちゃん、ありがとう。みんなも、ありがとうね。

笑顔のおばあちゃん。

春の陽ざしの中、桜の花びらが散る

幕